慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

-	cory of Academic resouces				
Title	遠隔体育授業システムの構築				
Sub Title	Impact of remote online classes on time spent sitting by university students				
Author	東海林, 祐子(Tokairin, Yuko)				
Publisher	慶應義塾大学				
Publication year	2021				
Jtitle	 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)				
JaLC DOI					
Abstract	 本研究の目的は新入生750名が履修する体育授業を対象に、遠隔オンライン授業のツールの一つとして開発した「SFC-GO」のアプリケーションが新入生の遠隔によるコミュニケーションと運動 習慣にどのような影響を与えたのかを検討し、効果的な体育授業システムを構築することである。COVID19によって大学ではこれまでの対面授業から遠隔のオンライン授業の実施となり、大学 生の心身のリスクが危惧されている(大学ジャーナルオンライン、2020)。こうしたなかで、体 育授業の役割を果たすための目的は、身体活動量を確保することや他者とのコミュニケーションの かがで関わり合いを作っていくことである。本研究ではオンライン授業を通じて、こうした課 題を解決するために「SFC-GO」というアプリケーションを開発した。このアプリケーションの 開発には情報系の研究室が大きな貢献を行っており、体育分野と情報系の研究室との連携によっ て生まれたものである。 結果として「SFC-GO」を通じて、教員が課題設定をして、授業内外で遠隔で運動を実施するこ とは可能となった。さらに各学生の運動活動がアップロードされることでクラス内のコミュニケ ーションの醸成にも寄与した。こうした取り組みはキャンパスの「best practice」の一つとして一 定の評価をたちらした。しかしながら、こうした客観データを学生自身が、どのように自らの生 活習慣に生かしていくくのかについては検証の余地があり、次年度に生かすことが求められる。 The purpose of this study is creating the effective learning systems with the application soft; 'SFC- GO 'which was developed as one of the remote learning (on-line lectures) tools under the circumstances of COVID19. We will try to examine how SFC-GO works on students' on-line communications and exercise habits with the 800 first-year undergraduates who take the Physical Education classes. Due to COVD19 pandemic, students have been forced to take the remote on-line lectures) tools under the circumstances, the programs of P.E. lessons are required to fulfill the roles to give the opportunities to the students to make them keep the target amounts of physical activities and interactive communication with each other. In this study, we produced the application soft named 'SFC-GO' to solve the problems as we have mentioned so far. It was created based on the collaboration between physical activities and interactive communication specially the laboratory of informatics greatly contributed for this development. Consequently, SFC-GO made it possible for the teachers to set the assignments toward the students and have them execute the assigned exercises inside or outside classes. Moreover, the video upload of each student's sports activities established the mutual communication among the classmates.				
Notes					
Genre	Research Paper				
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000009-20200020				
UIL					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年 4 月 11 日

2020年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	大学院政策・メディア研究科	職名	准教授	按明如	2 000	- m
	氏名	東海林 祐子	氏名(英語)	Yuko TOKAIRIN	— 補助額	2,000	千円
		 研	究課題(日本語	語)			
遠隔体育授業シ	マステムの構築	筑 朱					
		石	开究課題(英訴	<u>t</u>)			
Impact of Remo	te Online Cla	asses on Time Spent Sitting by	University Stud	lents			
			研究組織				
氏 名 Name			所属・学科・	職名 Affiliation, department,	and position		
東海林祐子(Yu							
加藤貴昭(Taka	-	環境情報学部					
水鳥寿思(Hisa							
森将輝(Masaki		環境情報学部					
塩田琴美 (Ko							
中澤 仁 (Jin NA 大越 匡 (Tadas		環境情報学部 政策・メディア研究科					
入越 匡(Tadas	ni Ukosni)			~ 查 电			
		1. / 名が履修する体育授業を対象	研究成果実績の				<u> </u>
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC	Dコミュニケー SFC-GO」とい 青報系の研究 S-GO」を通じ	ーナルオンライン, 2020)。こうし -ションのなかで関わり合いを作 いうアプリケーションを開発した。 記室との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授	≂っていくことでさ このアプリケー 」のである。 業内外で遠隔	育授業の役割を果たすための ある。本研究ではオンライン ションの開発には情報系の で運動を実施することは可能	授業を通じて、こ 研究室が大きな となった。さらに	こうした課題 貢献を行っ こ各学生の	^{雀保す} 夏を解ってお)運動
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロ・ 一つとして一定の	Dコミュニケー SFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるこ。 の評価をもた	ーションのなかで関わり合いを作 いうアプリケーションを開発した。 記室との連携によって生まれたも	≈っていくことでる このアプリケー っのである。 業内外で遠隔 ⁻ ンの醸成にも寄 客観データを学	育授業の役割を果たすための ある。本研究ではオンライン ションの開発には情報系の で運動を実施することは可能 与した。こうした取り組みは	授業を通じて、こ 研究室が大きな Eとなった。さらに キャンパスの「b	らした課題 貢献を行っ こ各学生の est practio	^{寉保を留す} な な な で し こ で し の
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロ・ 一つとして一定の	Dコミュニケー SFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるこ。 の評価をもた	ーションのなかで関わり合いを作いうアプリケーションを開発した。 記室との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション らした。しかしながら、こうした名 次年度に生かすことが求められ	≈っていくことでる このアプリケー っのである。 業内外で遠隔 ⁻ ンの醸成にも寄 客観データを学	「授業の役割を果たすための ある。本研究ではオンライン ションの開発には情報系の で運動を実施することは可能 与した。こうした取り組みは 生自身が、どのように自らの	授業を通じて、こ 研究室が大きな Eとなった。さらに キャンパスの「b	らした課題 貢献を行っ こ各学生の est practio	^{寉保す}
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロ・ 一つとして一定の ついては検証の The purpose of of the remote le students'on-	Dコミュニケー GFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lii	ーションのなかで関わり合いを作いうアプリケーションを開発した。 記室との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション らした。しかしながら、こうした名 次年度に生かすことが求められ	このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 観データを学れる。 成果実績の概 systems with throumstances of		授業を通じて、こ 研究室が大きな をとなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O ['] which was de xamine how SFG	こうした課題 貢献を行き こ各学生の est practio いしていくの eveloped a C-GO wor	留 ほ な て 運 し つ し こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い こ つ い い ら い い い ら い い い い い い い い い い い い い
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロー つとして一定の ついては検証の The purpose of of the remote le students'on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students.	Dコミュニケー SFC-GO」とい 青報系の研究 こ-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur o pandemic, st (University、	-ションのなかで関わり合いを作 やうアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション いらした。しかしながら、こうした名 次年度に生かすことが求められ creating the effective learning ne lectures) tools under the ci- nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lear Journal Online, 2020)	こっていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 記載データを学れる。 成果実績の概 systems with th roumstances of vith the 800 fin cake the remote arning environm		授業を通じて、こ 研究室が大きな まャンパスの「b 生活習慣に生か O ['] which was de xamine how SFe to take the Phy face-to face ir kinds of risks ir	こうした課題 貢献を行っ こ各学生の est practio Nしていくの eveloped a C-GO word rsical Educ nstructions	留 な で で で で で し た い で で し た い で い で い で い で い で い で い で い で い で い い い い い い い い い い い い い
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロ・ 一つとして一定の ついては検証の The purpose of of the remote la students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Circ make them keep	Dコミュニケー SFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur O pandemic, s fore. Thus, th (University, cumstances, o the target a	-ションのなかで関わり合いを作 やうアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション いらした。しかしながら、こうした? 次年度に生かすことが求められ creating the effective learning ne lectures) tools under the ci- nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lear Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities a	こっていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 記載データを学れる。 成果実績の概 systems with th roumstances of with the 800 fin ake the remote arning environm re required to and interactive of		授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O [•] which was de xamine how SFe to take the Phy face-to face ir kinds of risks ir opportunities to ter.	こうした課題 貢献を行っ こ各学生の est practio いしていくの aveloped a C-GO wor sical Educ n mind and the studer	留 な で で で で で で で で で で で で で
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S がするために「S に 話動がアップロー つとして「SFC 活動がアップロー つとして「SFC で 話動がアップロー ついては検証の 「he purpose of of the remote lo students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Cirr nake them keep n this study, we	Dコミュニケー GFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur g pandemic, s (University c cumstances, o the target a e produced th	-ションのなかで関わり合いを作 トラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション らした。しかしながら、こうした名 次年度に生かすことが求められ てreating the effective learning ne lectures) tools under the ci nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lead Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities an he application soft named 'SFC	っていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 観データを学れる。 成果実績の概要 systems with the roumstances of with the 800 fin take the remote arning environment are required to nd interactive c C-GO' to solve		授業を通じて、こ 研究室が大きな まとなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O [•] which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face ir kinds of risks ir opportunities to ter. nentioned so far	こうした課題 貢献を行っ こ各学生の est practio Nしていくの eveloped a C-GO wor visical Educ nstructions n mind and the studer . It was cr	留 な で で で で で で で で で で で で で
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S 大体育分野と 結果として「SFC 舌動がアップロー つとしていていた でしてして いては検証の 「he purpose of of the remote le students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Circ nake them keep n this study, we based on the	Dコミュニケー GFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の許価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur O pandemic, s fore. Thus, th (University of cumstances, o the target a e produced th collaboration	-ションのなかで関わり合いを作 やうアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション いらした。しかしながら、こうした? 次年度に生かすことが求められ creating the effective learning ne lectures) tools under the ci- nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lear Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities a	っていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 観データを学れる。 成果実績の概要 systems with the roumstances of with the 800 fin take the remote arning environment are required to nd interactive c C-GO' to solve		授業を通じて、こ 研究室が大きな まとなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O [•] which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face ir kinds of risks ir opportunities to ter. nentioned so far	こうした課題 貢献を行っ こ各学生の est practio Nしていくの eveloped a C-GO wor visical Educ nstructions n mind and the studer . It was cr	留 な で で で で で で で で で で で で で
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロー つとして「ない ついては検証の The purpose of of the remote le students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Circ make them keep in this study, we based on the nformatics great	Dコミュニケー GFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur O pandemic, s fore. Thus, th (University s cumstances, o the target a e produced th collaboration thy contribut	-ションのなかで関わり合いを作 シラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション さした。しかしながら、こうしたる 次年度に生かすことが求められ 2.研究 creating the effective learning ne lectures) tools under the ci nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lead Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities an he application soft named 'SFC between physical education	こっていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 観データを学れる。 成果実績の概 systems with the roumstances of vith the 800 fin take the remote arning environment re required to fin the source of constances of vith the source of the source of constances of vith the source of the source of constances of vith the source of systems with the cumstances of vith the source of vith the source of constances of vith the source of constances of vith the source of constances of vith the source of vith the source of vith the source of constances of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith		授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O ['] which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face in kinds of risks in opportunities to ter. nentioned so far d especially the	こうした課題 貢献を行き est praction Nしていくの eveloped a C-GO wor visical Educ n mind and the studer the studer a laborato	留かり なた なた なた で ま の た の し た の し た の し た の の に し の の に し の の に し の の に し の の の の の の の の の の の の の
が危惧されていることや他者との したいで、 したいで	Dコミュニケー GFC-GO」とい 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の許価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur opandemic, s fore. Thus, th (University (cumstances, o the target a e produced th collaboration (thy contribut SFC-GO mac	-ションのなかで関わり合いを作 ハラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション らした。しかしながら、こうしたる 次年度に生かすことが求められ 2.研究 creating the effective learning ne lectures) tools under the ci nications and exercise habits w students have been forced to the here are concerns that such lead Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities an he application soft named 'SFC between physical education ed for this development.	こっていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 観データを学れる。 成果実績の概 systems with the roumstances of vith the 800 fin take the remote arning environment re required to fin the source of constances of vith the source of the source of constances of vith the source of the source of constances of vith the source of systems with the cumstances of vith the source of vith the source of constances of vith the source of constances of vith the source of constances of vith the source of vith the source of vith the source of constances of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith the source of vith		授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O ['] which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face in kinds of risks in opportunities to ter. nentioned so far d especially the	こうした課題 貢献を行き est praction Nしていくの eveloped a C-GO wor visical Educ n mind and the studer the studer a laborato	留かり なた なた なた で ま の た の し た の し た の し た の の に し の の に し の の に し の の に し の の の の の の の の の の の の の
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロー つとして「な好 ついては検証の The purpose of of the remote la students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the CoVD19 used to have be to the students. Under the students. Under the students. Consequently, S assigned exercises Moreover, the v With these imple	Dコミュニケー GFC-GO」という 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commun of pandemic, s fore. Thus, th (University, cumstances, o the target a e produced th collaboration thy contribut SFC-GO made ses inside or ideo upload of ementations,	-ションのなかで関わり合いを作 ハラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション ふした。しかしながら、こうした? 次年度に生かすことが求められ 2.研究 creating the effective learning ne lectures) tools under the ci- nications and exercise habits w students have been forced to the here are concerns that such lear Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities and he application soft named 'SFC between physical education ed for this development. de it possible for the teachers outside classes. of each student's sports activities we received a certain apprecia	このていくことで このアプリケー のである。 業の外で遠隔 ンの醸成にも寄 観データを学れる。 成果実績の概 systems with the roumstances of with the 800 fine anning environment are required to and interactive of C-GO' to solve specialty and to set the ass ies established tion to be chose	野授業の役割を果たすための ある。本研究ではオンライン ションの開発には情報系の で運動を実施することは可能 与した。こうした取り組みは 生自身が、どのように自らの 要(英訳) ne application soft; 'SFC-GG F COVID19. We will try to e rst-year undergraduates wh e on-line lectures instead of ents could be brought some fulfill the roles to give the o ommunication with each oth the problems as we have n information specialty, and ignments toward the studer the mutual communication a en as 'best practice' of the	授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O 'which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face in kinds of risks in opportunities to ter. hentioned so far d especially the hts and have the among the class campus.	うした課題 貢献を行き est practio Nしていくの eveloped a C-GO wor vsical Educ nstructions n mind and the studer the studer a laborato em execut mates.	留合 で 全 な で ま の で の で し た し た の し た し た の し た し た の し た し た の し の し し の し し の し し の し し の し し の し し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の の の の の の の の の の の の の
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロー つとして「な反 ついては検証の The purpose of of the remote la students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Cirr make them keep in this study, we based on the nformatics grea Consequently, S assigned exercise Moreover, the v With these imple However, there	Dコミュニケー GFC-GO」という 青報系の研究 つ-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commun opandemic, s fore. Thus, th (University of cumstances, o the target a e produced th collaboration thy contribut SFC-GO mad ses inside or ideo upload of ementations, are still son	-ションのなかで関わり合いを作 ハラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション ふした。しかしながら、こうした? 次年度に生かすことが求められ 2.研究 creating the effective learning ne lectures) tools under the ci nications and exercise habits w students have been forced to the here are concerns that such lear Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons a amounts of physical activities and he application soft named 'SFC between physical education ed for this development. de it possible for the teachers outside classes. of each student's sports activities	このていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 記載データを学れる。	野授業の役割を果たすための ある。本研究ではオンライン ションの開発には情報系の で運動を実施することは可能 与した。こうした取り組みは 生自身が、どのように自らの 要(英訳) ne application soft; 'SFC-GG F COVID19. We will try to e rst-year undergraduates wh e on-line lectures instead of ents could be brought some fulfill the roles to give the o ommunication with each oth the problems as we have n information specialty, and ignments toward the studer the mutual communication a en as 'best practice' of the	授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O 'which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face in kinds of risks in opportunities to ter. hentioned so far d especially the hts and have the among the class campus.	うした課題 貢献を行き est practio Nしていくの eveloped a C-GO wor vsical Educ nstructions n mind and the studer the studer a laborato em execut mates.	留す の で な で ま の の で の で し た の し た の し の し の し し の し し の し し の し し の し し の し の し の し の し の し の し の し の し の の の の の の の の の の の の の
が危惧されてい ることや他者との 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロー つとして「な反 ついては検証の The purpose of of the remote la students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Cirr make them keep In this study, we based on the informatics grea Consequently, S assigned exercise Moreover, the v With these imple However, there	Dコミュニケー GFC-GO」という 青報系の研究 つ-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commun opandemic, s fore. Thus, th (University of cumstances, o the target a e produced th collaboration thy contribut SFC-GO mad ses inside or ideo upload of ementations, are still son	-ションのなかで関わり合いを作 ハラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション ふした。しかしながら、こうした? 次年度に生かすことが求められ てreating the effective learning ne lectures) tools under the ci- nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lear- Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons are amounts of physical activities and he application soft named 'SFC between physical education ed for this development. de it possible for the teachers outside classes. of each student's sports activities we received a certain apprecian ne rooms for examination. We recise habits in the coming years	こっていくことで このアプリケー のである。 業内外で遠隔 ンの醸成にも寄 家観データを学れる。 成果実績の概望 systems with the roumstances of with the 800 find ake the remoted arring environment re required to a nd interactive co C-GO' to solve specialty and to set the ass ies established tion to be chose will continue to		授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O 'which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face in kinds of risks in opportunities to ter. hentioned so far d especially the hts and have the among the class campus.	うした課題 貢献を行き est practio Nしていくの eveloped a C-GO wor vsical Educ nstructions n mind and the studer the studer a laborato em execut mates.	留 す の で ま の の の に し た の し た の し た の し の し し の し し し の し し し し し し し し し し し し し
ることや他者とん 決するために「S り、体育分野と 結果として「SFC 活動がアップロー ーつとして一定で ついては検証の The purpose of of the remote he students' on- classes. Due to COVD19 used to have be to the students. Under the Cirr make them keep In this study, we based on the informatics grea Consequently, S assigned exercise Moreover, the v With these imple However, there	Dコミュニケー GFC-GO」という 青報系の研究 C-GO」を通じ ードされるここ の評価をもた の評価をもた の余地があり、 this study is eaning (on-lin line commur O pandemic, s fore. Thus, th (University of cumstances, o the target a e produced th collaboration thy contribut SFC-GO made ses inside or ideo upload of ementations, are still son yles and exer	-ションのなかで関わり合いを作 ハラアプリケーションを開発した。 空との連携によって生まれたも て、教員が課題設定をして、授 とでクラス内のコミュニケーション ふした。しかしながら、こうした? 次年度に生かすことが求められ てreating the effective learning ne lectures) tools under the ci- nications and exercise habits we students have been forced to the here are concerns that such lear- Journal Online, 2020) the programs of P.E. lessons are amounts of physical activities and he application soft named 'SFC between physical education ed for this development. de it possible for the teachers outside classes. of each student's sports activities we received a certain apprecian ne rooms for examination. We recise habits in the coming years	 つていくことでえ このアプリケー のである。 二のアプリケー のである。 業のかで遠隔 ンの醸成にも寄 記していないです。 「成果実績の概望 いる。 成果実績の概望 いる。 成果実績の概望 いる。 成果にないためです。 成果まれの概望 いる。 成果実績の概望 いる。 「成果実績の概望 いる。 「成果実績の概望 いる。 「成果実績の概望 いる。 「成果実績の概望 いる。 「「「ない」」 「「ない」」 「」ない」」		授業を通じて、こ 研究室が大きな まなった。さらに キャンパスの「b 生活習慣に生か O 'which was de xamine how SFG to take the Phy face-to face in kinds of risks in opportunities to ter. nentioned so far d especially the among the class campus. o reflect the of	うした課題 貢献を行き est praction Nしていくの eveloped a C-GO wor vsical Educ astructions a mind and the studer the studer a laborato em execut mates. ojective da	留す で な な な で ま の の で ま の の で し た の し た の し た の し た の し た の し の の し の の し の の し の の し の の の し の の の の の の の の の の の の の

Nishiyama, Y., Kakino, Y.,	Physical Activity Analysis of	https://arxiv.org/abs/2103.06515?	2021.3.12
Naka, E., Noda, Y., Hashiba,	College Students during a	fbclid=	
S., Yamada, Y., Sasaki, W.,	Pandemic Using Off-the-shelf	IwAR2np4I9YvSk1deRlryuzyGPankW	
Okoshi, T., Nakazawa, J.,	Smartphones.	56XP3fqEHkz7P8qbjiST3bjayOFJC9	Q I
Mori, M., Mizutori, H., Shiota, K.,			
Nagano,T., Tokairin,Y., Kato,T.			
東海林祐子	健康生活記録アプリ SFC-GO の開	大学教養体育研究会, WEB ワーク	2020.9.5
	発とそれを利用したオンライン授業	ショップ「大学体育のニューノーマ	
		ル」	